

総合計画策定に係る若手職員ワークショップ

次期総合計画の策定に向け、令和2年2月から3月にかけて、市役所内の各部署より推薦された20代の職員9名を対象とした「若手職員ワークショップ」を実施。

今後10年、20年後の志摩市を担っていく若手職員が集まり、市を取り巻く社会情勢の変化や今後想定される課題などを踏まえ、将来のまちの姿について検討した。

結果概要

◆「若者の理想のまち」を実現していくためのポイント

○最新技術の活用

→ 若者・行政という立場から、率先してまちづくりに取り入れたい。

○今ある「いいもの」の継承・さらなる活用

→ 伝統文化や特産物を大切にす。発信し、守っていく。

◆将来の志摩市を考える3本の柱

<p>ひと・まち 「若者が戻ってきたいと思ふまちへ」</p>	<p>○若者が増えて居続けてもらうために大学を誘致する。大学では志摩市の特色を生かす学科(観光・漁業・農業)と未来に向けた学科(語学・テクノロジー)を創設して学んでもらう。 ○小中学校で志摩市の事を学んで地元への理解を深めて愛着を持ってもらう。</p>
<p>仕事 「若者が働きたいまちへ」</p>	<p>○仕事があれば、若者の流出を防ぐことができる。 ○学生達がAIやドローンを活用しながら、学んだ知識を活かすことができる仕事が必要。</p>
<p>安心・安全 「安心・安全に暮らせるまちへ」</p>	<p>○防災拠点の整備や制度を充実させる。 ○AIなどの最新技術を取り入れた「しくみ」づくりを行う。</p>

◆市職員である自分たちの役割

○制度の充実や施設の整備など、個人の力では困難なことを支援していくこと。

○市の取り組みの中に、新しいもの、新しい考え方を積極的に取り入れていくこと。